

歯科クリニック

総合診療室 (保存科)

[実習] 第2学年 後期 必修 臨床実習

《担当者名》 歯学部教授 / 長澤 敏行 歯学部教授 / 斎藤 隆史 歯学部講師 / 加藤 幸紀 歯学部准教授 / 松田 康裕
歯科クリニック 歯科衛生士担当 / 五十嵐 陽子

【概要】

臨床実習を通して歯の保存診療 (修復・歯内・歯周) の補助と口腔清掃指導を実施し、講義で習得した基本的知識・技術を復習し臨床実習に活かしていく。

修復・歯内・歯周治療の流れや、使用される器材、薬剤の取扱いおよび管理について実習で身につけていく。

歯科医師および歯科衛生士等のコメディカルとの連携を保つと共に、一般患者および心身の障害者へ配慮し、歯科衛生士としての臨床に役立つ項目を学ぶ。

【学修目標】

歯の保存診療 (修復・歯内・歯周) に関する基礎知識を習得している。

保存診療の流れを理解している。

保存診療の準備や補助および口腔清掃指導ができる。

保存診療に必要な器具器材 (剤) の準備ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	口腔清掃指導	実・補・見 5 以上 (実 : 実習 補 : 補助 見 : 見学) モチベーション・ブラッシング指導の実際を学ぶ 使用器材、薬剤の取扱いおよび管理について理解する	長澤 敏行 斎藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子
2	スケーリング・ルートプレーニング、PTC/PMTC	スケーリング (実・補 1 以上、ルートプレーニング (補・見 1 以上、PTC/PMTC 補・見 1 以上)) スケーリング・ルートプレーニング、PTC/PMTC の実際を学ぶ 使用器材、薬剤の取扱いおよび管理について理解する	長澤 敏行 斎藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子
3	歯周組織の検査方法	補 2 ・見 1 以上 歯周組織検査の内容を理解する 歯周疾患の病態を評価することの意味を学ぶ 器具・器材の使用・管理法を学ぶ 見 1 以上	長澤 敏行 斎藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子
4	各種セメントの練和	実・見 4 以上 各種セメントの特徴・練和方法を習得する。	長澤 敏行 斎藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子
5	成形修復 (レジン・インレー修復)	レジン修復 (補・見 2 以上)、インレー修復 (補・見 1 以上) 成形修復の特徴を理解し、器材の準備と効率的な補助業務をする。	長澤 敏行 斎藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子
6	ラバーダム装着	補・見 1 以上 無菌的処置法の意義・利点・適応、術式を習得する。 器具・器材の使用・管理法を習得する。	長澤 敏行 斎藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子
7	覆髄 (直接・間接) ・裏層	補・見 1 以上 覆髄 (直接・間接) ・裏層の意味を理解する。 使用する器材・薬剤の特徴・使用・管理方法を習得する。	長澤 敏行 斎藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
8	初回抜髄・感染根管治療、根管治療	補・見各1以上 無菌的処置の重要性について理解する。 硬組織に囲まれた歯髄除去の流れおよび使用器具・充填材の特徴・使用・管理法を習得する。 治療基本や感染防止および破壊された歯周組織を回復するための治療の流れおよび使用器具・充填材の特徴・使用・管理法を習得する。 根管拡大・形成の実際を学ぶ。 根管消毒薬の選択と使用法について学ぶ。	長澤 敏行 齋藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子
9	根管充填セメントの練和・根管充填	補・見1以上 根管治療の最終処置あるいは、再感染防止法としての根管充填処置の流れおよび使用器具・充填材の特徴・使用法・管理法を習得する。	長澤 敏行 齋藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子
10	各種印象材の取扱いおよび練和	実・補1以上 印象材の取扱いおよび練和方法を習得する。	長澤 敏行 齋藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子
11	器具の名称と取扱い(含準備・消毒・整備)	実 1以上 器具の名称を覚え、取扱い方法を習得する。	長澤 敏行 齋藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子
12	障がい者の診療	補・見1以上 様々なハンディキャップを有する患者の保存領域に対する処置法の流れや治療・補助限界の存在を認識し、応用・発展させることを学ぶ。	長澤 敏行 齋藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子
13	その他の実習	見1以上	長澤 敏行 齋藤 隆史 加藤 幸紀 松田 康裕 五十嵐 陽子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

知識・技術・応用力

実習態度

実習帳内容・口頭試問

身装

総合評価を実習成績とする。

【教科書】

「歯科衛生士教本(保存修復・歯内療法)」医歯薬出版

最新歯科衛生士教本「歯周疾患」全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

「歯科衛生士教育マニュアル新編歯周治療」クインテッセンス出版

【参考書】

最新歯科衛生士教本「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版

【学修の準備】

これまでの講義内容を十分に理解し、患者見学・臨床実習内容を周知したうえで、毎回の実習に臨むこと。

【実務経験】

長澤 敏行（歯科医師）、斎藤 隆史（歯科医師）、加藤 幸紀（歯科医師）、松田 康裕（歯科医師）、五十嵐 陽子（歯科衛生士）

【実務経験を活かした教育内容】

これまでに培った保存修復学、歯内療法学、及び歯周治療学の知識・技術を理解し、習得するために、歯科医師と歯科衛生士から指導を受けることにより、技術のみではなく患者とのコミュニケーション能力を習得することが可能となり、高い教育効果が得られる。